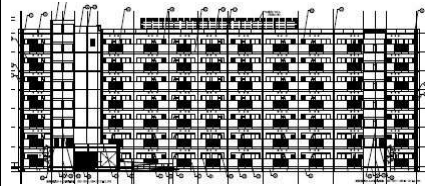


CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年7月改訂) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | 氷室第6次公営住宅新築工事 | 階数 | 地上7F |
| 建設地 | 名古屋市南区氷室町1901番及び1902番 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 市街化区域、準防火地域 | 平均居住人員 | 200 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2026年10月 予定 | 評価の実施日 | 2023年4月10日 |
| 敷地面積 | 2,840 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 909 m ² | 確認日 | 2023年4月10日 |
| 延床面積 | 5,033 m ² | 確認者 | |



| 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート) | 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート) |
|--|--|-----------------------|
| <p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> | <p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

| 2-4 中項目の評価 (バーチャート) | | |
|---------------------------------------|--|--|
| <p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p> | | |
| <p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1</p> | <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0</p> | <p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.7</p> |
| <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0</p> | | |
| <p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2</p> | <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2</p> | <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8</p> |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|---|--|
| <p>総合</p> <p>南向きに窓を設けることで居室内に自然光を取り入れ、居住者の方の健康や快適性に配慮した。</p> | | <p>その他</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>外部に対して開口部を大きくとり、自然光を出来るだけ取り入れる計画と配慮した。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>ゆとりある空間とすることで快適性に配慮した。</p> | <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>舗装計画があるとしても緑地をなるべくとり、基準値程度の配慮した。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱性能に配慮した仕様とすることで建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まず分別可能な建材を出来るかぎり使用する配慮した。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>高効率な設備等を採用することでライフサイクルCO₂排出率を抑え地球温暖化に配慮した。十分な台数の駐車、駐輪スペースを確保することで地域の交通負荷抑制に配慮した。</p> |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

氷室第6次公営住宅新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する 重み係数 | 重点項目 スコア |
|----------|-----------------|-----|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.1 |
| LR1 | エネルギー | 3.2 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.0 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 2.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 2.5 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 2.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 有 | 0.009 | |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 3.3 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.0 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 3.4 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 3.0 | 0.01875 | |

結果

| | |
|----------|-----------|
| 1. 温暖化対策 | 評価点 = 3.1 |
| | |
| 2. 自然共生 | 評価点 = 2.5 |
| | |
| 3. 循環型社会 | 評価点 = 3.3 |
| | |

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。